



地域医療連携室だより Vol. 133

発行元 地方独立行政法人
市立大津市民病院 地域医療連携室
住所 〒520-0804
滋賀県大津市本宮二丁目9番9号
電話 077-526-8192
F A X 077-522-0192 発行日:2020年6月1日

市立大津市民病院 検索

新任部長就任のご挨拶

心臓血管外科診療部長:藤原 克次



令和2年4月1日より、市立大津市民病院心臓血管外科の診療部長を拝命いたしました、藤原克次(ふじわら かつじ)です。私自身は平成19(2007)年10月より当院心臓血管外科に赴任しており、医長を経てこのたび診療部長を拝命いたしました。この大津市民病院で生まれ、草津市出身です。膳所高校、滋賀医大を卒業し、この地域は非常に親しみのある地域です。京都府立医大に入局し、当院に赴任いたしました。赴任してきたというより地元に戻ってきたような気持ちで着任させていただいています。

さて、当院心臓血管外科は、冠動脈疾患や弁膜症に対する開心術から腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症による動脈疾患に対する動脈手術を行っており、さらには恒久的ペースメーカー植え込みも当科で担当しております。また、下肢静脈瘤につきましても、2014年に保険収載となりました1470nmレーザーによる血管内焼灼術を、2015年1月より大津市内の他院に先駆けて導入し、治療しています。

当院では開心術症例に対して循環器内科とハートカンファレンスを行い(現在は新型コロナウイルス感染症のため見合わせ中)、各患者さんに対して適応や治療について十分な検討を行っております。そのうえで、手術適応となった患者さんには京都府立医科大学心臓血管外科と綿密な連携を取り、治療を行っております。

また下肢静脈瘤については、レーザーを用いて血管内焼灼術を行っておりますが、以前のストリッピング手術に比べて術後の疼痛の訴えが減少し、多くの患者さんに満足していただいております。しかし、下肢の静脈拡張部周囲の色素沈着を引き起こしている患者さんも珍しくなく、中には皮膚潰瘍まで進んでいる方もおられます。下肢静脈瘤に対して、まだまだ治療対象であるとの認識が薄い患者さんも多く、我々も地域の方々に下肢静脈瘤についての知識を持っていただくよう努力している次第です。

この4月より心臓血管外科は新しく2人の医師が赴任して2人から3人体制となりました。さらに充実した医療を提供できるように日々精進してまいりますので、先生方には今後もいろいろとご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。



医長:宮崎 隆子



医長:谷口 智史



新任部長就任のご挨拶

歯科・口腔外科診療部長:寺村 千俊



本年4月1日より歯科口腔外科診療部長を拝命いたしました、寺村千俊(てらむら ちとし)と申します。滋賀県彦根市出身で出身大学は大阪歯科大学です。滋賀で生まれ、一時期を東京や大阪で過ごした以外、殆どの期間を滋賀で育てて参りましたので、地域への愛着は強いと思っております。趣味はスキー・スノーボードです。

これまでも前診療部長・松本先生のご指導の下で本院での診療に携わってまいりましたことから、当科の診療体制は熟知しております。前任の診療部長に比べますとまだまだ力不足ではありますが、今年度も松本先生には非常勤でお力をお貸しいただくこととなりましたので、地域の先生方のご協力もいただきまして、これまで通りの診療体制を維持し将来的にはより発展出来ればと意気込んでおります。

しかしながら、2020年に入り日本国内での新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大状況を受け、ちょうど私が診療部長に就任いたしました4月より、学会や大学医局からの通達もあり、本院の感染症指定医療機関としての責務を果たすために、不本意ながら当科での外来診療や手術・処置などの診療体制を大幅に縮小せざるを得なくなってしまいました。ご紹介の制限をお願いしたり、休日・時間外の救急対応などもお断りすることとなっており、地域の先生方には多大なるご迷惑をお掛けしている状態です。予断は許さないものの、現在はCOVID-19の第一波は収束傾向に見えます。今後の状況を注視しながら、段階的にこれまでの診療体制に戻していければと考えておりますので、何卒ご理解・ご協力をお願い致します。

二次医療機関として、この地域で良質な医療がご提供できるよう日々研鑽してまいりますので、これからもご指導・ご鞭撻のほど、宜しくお願ひ申し上げます。



2年目研修医 note

①名前

橋本 開(はしもと かい)

②出身大学・卒業年度

高知大学 2018年度卒業

③趣味

ランニング 筋トレ

④医師を目指した理由

カッコいいから

⑤どんな医師になりたいですか？

その患者にとっての最善の医療を一緒に導き出せる医師

⑥研修医2年目の目標

病棟管理を学ぶ

⑦地域の先生方へのメッセージ

まだまだ未熟でご迷惑をおかけしてしまうかもしれませんが、自分が生まれ育った地域の滋賀医療に貢献できるよう精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。



地域医療連携室より



病診連携業務を担当しております、前畑 江里と申します。いつも大変お世話になり、本当にありがとうございます。

“まじめが肝心”をモットーに日々仕事をしてしておりますが、ご希望に沿えなかったり、不快なお気持ちを抱かせてしまったりすることも多々、汗顔の至りです。それでも患者様のために一緒に働けることがとても嬉しいです。

数ヶ月前には想像もしなかった毎日です。感染症との戦いは宿命ですが、今回も何か人間が試されているような、大きな転換期に遭遇しているような心持ちです。何の変哲もない日常がいかにありがたいか深く感謝しつつ、コロナ後の新しい世界の価値観に期待を抱く今日この頃です。

皆様、どうかご自愛ください。

地域医療連携室:前畑 江里



紫陽花の花言葉



『紫陽花の花言葉』といえば、紫陽花の花の色が咲いている間にも次々と変化していくことから『移り気』『変節』『浮気』『無情』等マイナスイメージのものを思い浮かべてしまいますが、小さな花が寄り添い合って咲いている様子から『団結』『家族』『友達』『平和』『和気あいあい』等ポジティブなイメージを抱かせる花言葉もあるようです。



COVID-19の影響で例年とは違う心境で迎える梅雨の季節。遠出をして紫陽花の花を愛でることは難しいかもしれませんが、毎年変わらず病院の第二駐車場付近に咲いてくれる紫陽花の花を思い浮かべながら、不安な気持ちから解き放たれて、心から『和気あいあい』と楽しめる日々が一刻でも早く訪れてくれることを願っています。

地域医療連携室だより担当 中野



撮影：地域医療連携室 澤山（2019年6月 もりやま芦刈園・金剛輪寺）